臨床心理士による自殺未遂者支援に資する知識とスキルの検討

— 自殺未遂者を支援する臨床心理士を対象としたトレーニングプログラムの開発 —

○高井美智子¹・川本静香²・川島義高³・松本俊彦³・上條吉人¹

(¹ 埼玉医科大学²・山梨県立大学³・国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)

キーワード：臨床心理士・自殺未遂者支援・トレーニングプログラム

Exploration of knowledge and skills that contribute to support of suicide attempts by clinical psychologists

Michiko TAKAI¹, Shizuka KAWAMOTO² and Yoshitaka KAWASHIMA³ Toshihiko MATSUMOTO³, Yoshito KAMIJO¹

(¹Saitama Medical Univ., ²Yamanashi Prefecture Univ., ³National Institute of Mental Health,

National Center for Neurology and Psychiatry)

Key Words: Clinical psychologist, Suicide prevention, Training program

【目的】わが国における自殺対策の重要施策である自殺未遂者支援への貢献が期待されている臨床心理士であるが、その専門性や独自性を活かし自殺未遂者を効果的に支援するための適切な知識やスキルについてこれまで十分検討されていない。そこで、本研究では、自殺未遂者の再度の自殺企図を防ぐための支援に資する知識やスキル等を明らかにし、臨床心理士を対象とした自殺未遂者支援のためのトレーニングプログラムを開発し、その効果を検討することを目的とする。本発表では、その第一段階として、臨床心理士と協働して自殺未遂者支援を行う機会のある対人援助職を対象に、半構造化面接を実施し、自殺未遂者支援を協働して行う上で臨床心理士に求める知識やスキルについて検討した。

【方法】対象者：臨床心理士と協働して自殺未遂者支援を行った経験のある対人援助職 11 名（医師 2 名、看護師 2 名、ソーシャルワーカー 3 名、教員 1 名、養護教諭 1 名、行政職員 2 名；男性 5 名、女性 6 名；自殺未遂支援の経験年数 11.5±7.6 年）。

手続き：縁故法により対象者を募集した。対象者に対し、研究の目的、個人の権利擁護および個人情報の保護等に関して記載した説明書を用いて説明した上で、研究への協力を依頼した。書面にて同意が得られた対象者に対して、半構造化面接により、個人属性、臨床心理士との協働の経験、自殺未遂者支援の中で臨床心理士に求める知識やスキル、臨床心理士が支援を提供する際の困難点や障壁、臨床心理士に求める役割についての情報を収集した。なお、本研究は埼玉医科大学倫理審査委員会の承認を得ている。

分析方法：保健医療ならびに教育現場において自殺対策に造詣のある臨床心理職 3 名が、自身の経験と合わせ、自殺未遂支援において具体的にどのような知識やスキルが臨床心理士に求められているかについて、上記面接結果を精査の上、KJ 法を用いて分類し整理した。具体的には、半構造化面接から収集された内容を付箋に書き出し、内容が近いカードを集めグループ化し、集めた付箋の内容にふさわしいタイトルをつけていき、グループを小グループから次第に大きなグループとしていく。その後、作成された内容の近いグループを空間的に近く配置し、知識やスキルの目的や方法等の関係性を想定し構造化した。

【結果】自殺未遂者支援において、対人援助職が臨床心理士に求める「知識」を表 1 に示す。臨床心理学の知識のみならず、医学的知識、自殺のリスクアセスメントに関する知識、そして社会資源に関する知識が求められていることが明らかとなった。また、臨床心理士に求める「スキル」(表 2)では、危機介入のスキル、自殺ハイリスク者本人や多職種とのコミュニケーションスキル、自殺リスクを評価するスキル、そして臨床現場で適応的に活動できるスキルが求められている。

表 1. 臨床心理士に求める知識

カテゴリ	サブカテゴリ (コード数)	具体例
医学的知識	身体疾患に関する知識 (2)	身体疾患の病気のこと 身体症状 (チア、モニターの読み方、せん妄) の知識
	精神医学的知識 (4)	せん妄や意識障害の知識 精神疾患の重症度についての知識 高齢者の自殺企図も多いため、認知症に関する知識 患者が眠っている薬に関する知識
	医学・薬学の知識 (3)	心理学に加えて医学的知識が必要 自殺リスクの評価についての知識 自殺未遂者や自殺ハイリスク者についての知識
	自殺のリスク評価	自殺に関する知識や対応方法について 生徒への心理的な対応について
臨床心理的援助	心理的援助に関する知識 (7)	心理教育 カウゼリングの知識 患者の心理面への対応方法について
	社会資源	制度を含めた幅広い社会資源をもっと知ったほうが良いと思う 外部の相談場所・社会資源についての知識 高齢者も多いため、介護や生活環境についての知識

表 2. 臨床心理士に求めるスキル

カテゴリ	サブカテゴリ (コード数)	具体例
個人スキル	基礎的スキル (3)	傾聴、積極的傾聴 心理面での基本的スキル (3)
	未遂者への心理的援助スキル (5)	心理教育の導入 CPDの枠を超えて自殺未遂者支援をするスキル 抱え込む傾向があるCPDが多いため、ある程度のことごとく手放すスキル 精神療法 (特に認知) のスキル
	ソーシャルワークのスキル (4)	他機関との連携や患者のコーディネート方法 CPD以上の知識やスキル (特に、ソーシャルワークの部分)
	コミュニケーションスキル (3)	CPDとしての態度を崩さない CPDがどのような仕事ができるのかをしっかりと見せたい CPDの強みは強みしつつも、ケースマネジメントを行ってほしい 未遂者との面接時に、全員に合った質問を直観化させるスキル
評価スキル	面接でコミュニケーションスキルを発揮できる (2)	自殺者本人とどう会話すれば良いか 自殺企図の患者の状況をアセスメントするスキル アセスメントスキル 自殺企図後の経過の経過をアセスメントするスキル
	リスク評価スキル (4)	アセスメントスキル 自殺企図後の経過の経過をアセスメントするスキル
	意思疎通・せん妄の評価スキル (3)	せん妄の診断、見立ての方法 意思疎通を評価できるスキル 認知機能を評価するスキルは有用 教育現場での立ち位置や働き方
	現場に合わせて動くスキル (5)	現場の状況に合わせて動くスキル 色々と現場 (部署) を回り回れようとする対人スキル 現場での持つ現況や評価を把握し、それをうまく伝える 教育現場の活動を見て、うまくコミュニケーションをはかるスキル 現場スタッフ、未遂者対応のアドバイスや積極的働きをうまくみ取る スタッフ間のコミュニケーションスキルを促す
臨床現場での適応スキル	スタッフ間の調整としてのスキル (4)	評価して問題を改善するためのプランを提案するスキル 色々と心理療法を駆使したアドバイスを生徒や保護者に渡すスキル 記録 (カルド) の書き方
	コンサルテーションのスキル (3)	記録 (カルド) の書き方

【考察】本研究の結果より、自殺未遂支援を行う対人援助職は臨床心理士に対して、医学や薬学、社会資源といった臨床心理学の枠組みを超えた浅くとも幅広い知識を持つことを求めていることが明らかとなった。また、他職種との積極的なコミュニケーションに加えて、自殺のリスクアセスメントや危機介入といった、自殺の再企図予防に特化したスキルを駆使して自殺ハイリスク者を支援することを期待していることも明らかとなった。

しかしながら、自殺は予測することが極めて難しい現象であり、また、自殺のリスクアセスメントを含む自殺未遂者支援についての知識不足や技術的な懸念と、それらを補うトレーニングや教育が整備されていない問題が現状としてある。今後は、臨床心理士を対象とした、自殺未遂者支援に関する知識やスキル等の向上を図るトレーニングプログラムの開発や、臨床心理士の養成体系についての見直しをすることで、危機介入を中心とした自殺未遂者支援を担う人材を体系的に育成していく必要性が示唆された。

【謝辞】本研究は JSPS 科研費 JP17K13956 の助成を受けたものです。